

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【地域作物、沖縄総合事務局】

沖縄県 北大東島堆肥等生産施設コンソーシアム（新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R7～R8）

- 既存の老朽化している用土等供給施設について、機能向上した堆肥等生産施設として合理化。
- 堆肥生産に床ブローア方式を導入して効率化を図るとともに、製糖副産物（トラッシュ、バガス、ケーキ）に糖蜜等を添加することで良質な堆肥を生産し生産者の単収向上を図り、地域循環型農業を推進する。
※床ブローア方式…積み上げた堆肥に対して床から空気を送る装置で好気性発酵を促進し、堆肥の効率性・品質・運用面の向上を図る方式

現状・課題並びに再編集約等の内容

【現状・課題】

- 既存施設は整備から20年以上が経過し、出入口シャッターや壁面の破損が発生したことにより風雨が入りやすい状態となる等、老朽化していた。
- 集中脱葉施設の整備により葉殻（トラッシュ）が増加し、適正で効率的な処理が求められていた。
- 製糖工場の効率的な運営にはさとうきびの単収の増加と収量の安定が必要であり、そのための土作りに必要な良質な堆肥が求められていた。

【再編集約等（合理化）の内容】

- 既存の用土等供給施設を解体し、床ブローア方式を導入すること等で、効率的に良質な堆肥を生産する堆肥等生産施設として合理化。



既存の用土等供給施設



堆肥散布の様子

再編集約・合理化等で期待される効果

- 床ブローア方式を導入し、製糖副産物に糖蜜等を添加することで良質な堆肥を短期間で生産可能にする。（堆肥の年間生産量：1,400t→3,000t（見込み））
- 製糖原料であるさとうきびの安定供給により製糖工場の効率的な操業が可能となり、製糖コストの減少が期待される。
- 良質な堆肥をほ場に還元することで、さとうきび生産者の単収を向上させ、農家の手取り額の増加を目指す。（現状値：5,090kg/10a、目標値：6,443kg/10a）
- 島内での有機質資源を無駄なく活用した地域循環型農業を推進する。

他産地へのメッセージ

- 畜産業がない北大東村では製糖工場から出る製糖副産物を堆肥化し生産性を高めることは持続可能な農業を進めるのに必要不可欠であった。そうした問題意識が島内全体で共有されていたことから、今回の事業計画の作成に際しても迅速な合意形成を得ることが出来た。日頃からの地域全体でのコミュニケーションが重要だと考える。